

# 泉 風信子(いずみ・ふうしんし)

## 1、プロフィール

津軽の風土と文化に根ざしつつ、「人間探求派」の精神に則った自由闊達な作風で全国的に活躍。俳論家としても知られ、多くの県内俳人の作家の紹介に努めた県俳壇の重鎮。

<生没>

1935(昭和10)年 ~ 2019(令和元)年9月29日

<代表作>

句集『熾火』『遠花火』、俳文集『志功まんだら』、随筆『弘前高校物語』、長編小説『皇帝の森』ほか。

<青森との関わり>

陸奥新報社常務取締役。「此岸俳句会」代表。「青森県現代俳句協会」会長などを歴任。

## 2、作家解説

昭和10(1935)年に青森県青森市に生まれる。本名、泉嶺(いずみたかし)。

少年時代に満州で過ごす。古川中学校時代に野脇中学校生だった寺山修司と親交。寺山修司が寄居していた大叔父が経営する映画館「歌舞伎座」のスクリーン裏の寺山の部屋で、たびたび野球ゲームに興じる。

昭和26年に寺山修司と共に青森県立青森高等学校に入学するも、父の仕事の関係で同年、青森県立弘前高等学校卒業に転校。

昭和29年に同校を卒業。

昭和31年に陸奥新報社に入社。以後、文化部長、東京支社長、編集部長を経て、平成10(1998)年から平成16年まで常務取締役を務める。

入社後に当時上司だった船水以南(本名・船水清)の影響で俳句を始め、平成3年に全国俳句結社「陸」に入会し同人となる。また同時期に弘前市において「此岸俳句会」を創設し代表を務める。俳句を船水以南、秋元不死男に師事。

以後、青森県現代俳句協会会長、県俳句懇話会副会長などを歴任。

また、俳句の他、いずみ涼のペンネームで小説家としても活躍し、清国最後の皇帝溥儀と侍従長工藤忠(青森県板柳町出身)を描いた長編小説『皇帝の森』で、第6回青森県文芸大賞を受賞。

生涯を通じて津軽の風土と文化に根ざしつつ、現代俳句の潮流のひとつである「人間探求派」の精神を大切にしながら俳句を作り続けた。

2019(令和元)年9月29日、心筋梗塞のため逝去(享年84)。